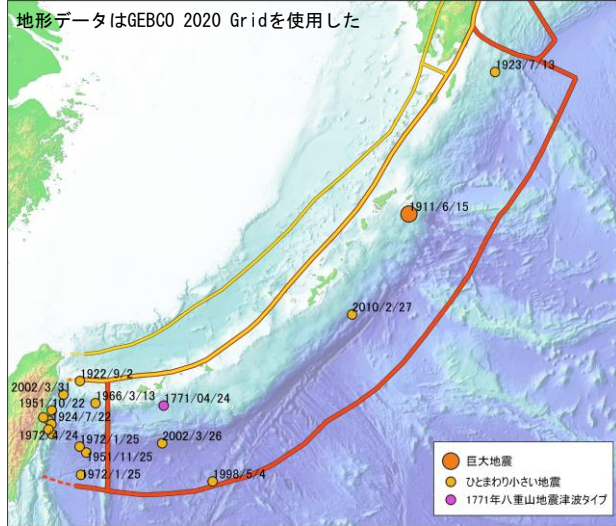


南西諸島海溝沿いを震源域とする地震

M	南西諸島周辺及び与那国島周辺の巨大地震	
	南西諸島周辺のひとまわり小さい地震	与那国島周辺のひとまわり小さい地震
8		
7		
領域	南西諸島周辺	与那国島周辺
確率計算に使用した地震 ^注	1919年以降の4回 1923, 1998, 2002, 2010	1919年以降の12回 1919, 1920, 1922, 1924, 1951, 1951, 1951, 1966, 1972, 1972, 1972, 2002
発生頻度	約25.8年に1回 (参考値)	約8.6年に1回
今後30年以内の地震発生確率	Xランク (不明)	Ⅲランク (90%程度以上)
地震規模	M7.0~7.5程度	M7.0~7.5程度

確率計算に使用した地震 ^注	1600年以降の1回 1911 (M 8.0)
発生頻度	不明
今後30年以内の地震発生確率	Xランク (不明)
地震規模	M8.0程度



南西諸島海溝沿いで評価した地震の震央分布

^注 地震発生確率を「不明」としたものについては、その評価対象地震に分類した地震の回数を記載した

留意点

- 南西諸島海溝周辺においては、評価に使用する地震カタログによって個々の地震の震源や規模が異なり、評価対象となる地震及びそれらから算出される発生頻度も異なるため、他の評価に比べて評価結果の不確実性が大きい。
- 震源決定精度の問題等があるため、プレート間地震とプレート内地震（海溝軸外側の地震を含む）を区別せずに評価する。ただし、震源決定精度の問題により、評価した地震の中には上盤側（陸側）のプレート内で発生した地震も含まれている可能性がある。そのため、与那国島周辺のひとまわり小さい地震の地震発生確率は高めに見積もられている可能性がある。
- 地震の発生頻度は一定で、時間が経過しても地震の起こりやすさが変わらないと仮定して、地震発生確率を計算。
- 南西諸島周辺では細分化するだけの科学的知見がないため広大な領域設定となっており、当該領域における地震の発生確率は、当該領域内に散在する島嶼近傍において発生し被害を及ぼしうる地震の発生確率とは大きく異なると考えられることから、発生頻度は参考値とし、地震発生確率は不明とした。